

わたしたちのまちの報告書



「わたしたちのまちの報告書」は、市が実施した主な事業をわかりやすくまとめた報告書です。この報告書には、令和6年度に市が実施した事業から、特にPRしたい事業をピックアップし、事業概要を写真とともに掲載しています。

問い合わせ 企画・情報政策グループ ☎ 349-8001

小・中学校の屋内運動場へ大型スポット型空調機を設置

小・中学校屋内運動場熱中症対策事業—決算額1億6417万円

近年の気温上昇に伴って、市内の小・中学校の屋内運動場では室温が上昇し、児童・生徒を含む施設利用者の熱中症リスクが増大していました。

利用者が安全で快適な環境のもとでスポーツに取り組めるよう、大型のスポット型空調機（以下「機器」）を各小学校に3台ずつ、各中学校に4台ずつ、合計33台設置しました。機器の運転時には冷房に加え、除湿も行うため、高い熱中症予防効果が得られます。学校によって、屋内運動場の周辺環境が異なるため、屋内運動場内におけるスポーツ活動のほか、屋外での活動や周辺環境も考慮しながら、機器を配置しました。

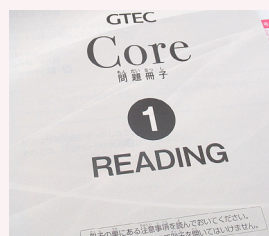
機器は個別に運転が可能で、バドミントンやバレーボールなど風の影響を受けやすい競技については、利用しているコートの機器の出力を弱め、利用していないコートの出力を強めに設定するなど、活動の実情に合わせて利用できます。

また、市内の小・中学校は、市の指定避難所であることから、万が一、夏期に災害が発生し、避難所として利用する際には必要に応じて機器稼働することも想定しています。



市内の中学2・3年生を対象に「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能別に測定するスコア型英語能力判定テストを実施し、一人ひとりの学習の伸びや課題の把握に取り組みました。また、課題となっているスピーキング力の向上を図るため、大阪府が提供する英語学習ツールを市内の小・中学校に導入しました。

《スコア型英語能力判定テスト》国は、中学校卒業段階の英語力におけるCEFR（外国語の習熟度を測る国際的な指標のA1レベル相当以上の生徒の割合が60%以上になることを目標にしています。令和6年度の市内の中学2・3年生が受験したGTEC（スコア型英語4技能検定）の結果、その割合は75%を超えました。子どもたちは、細かく分析された結果から自分の学びを振り返り、さらなる英語力の向上に向けた学びを進めています。



《英語学習ツール》AI搭載のBASE in OSAKA（単語や英文の音読、英語でやり取りした音声について、その精度や流暢さをAIで判定する大阪府が独自に開発した英語学習ツール）を授業や家庭学習で使用しました。音読練習だけでなく、英検の面接練習のコンテンツもあり、子どもたちは「英会話の練習ができるから楽しい」「もっと発音が上手になりたい」と意欲的に学習を行いました。



実践型学習による英語教育の充実

英語教育支援事業—決算額881万円